

# 三重大学医学部附属病院について

国立大学法人 三重大学  
理事・副学長  
医学部附属病院 病院長

佐久間 肇



# 三重大学医学部附属病院執行部体制



佐久間 肇

病院長



土肥 薫

副病院長

地域連携・診療（内科系）担当



水野 修吾

副病院長

総務・診療（外科系）担当



近藤 峰生

副病院長

経営担当



問山 裕二

副病院長

研究・倫理担当



兼児 敏浩

副病院長

医療安全担当



福永 稚子

副病院長

医療サービス担当

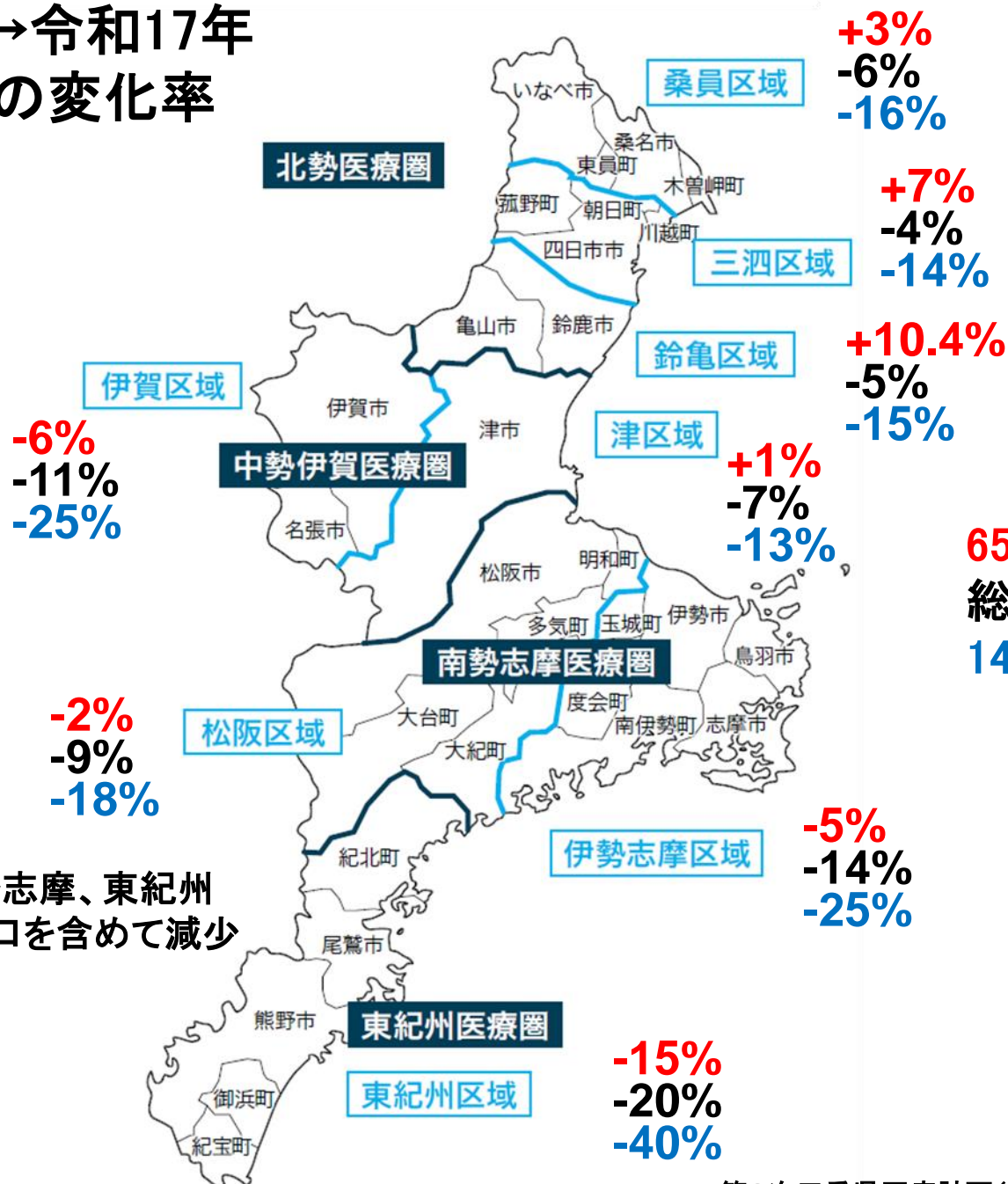


伊藤 利宏

副病院長

事務担当

# 令和7年→令和17年 推計人口の変化率



65歳以上人口  
総人口  
14歳以下人口

伊賀、松阪、南勢志摩、東紀州  
では65歳以上人口を含めて減少

## 三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

### 1 教育

地域・社会・世界とのつながりを通して、  
行動する力を引き出す教育

- 行動する力で地域をけん引する人材の育成
- 新たな価値の創出マインドを持つ人材の育成
- 地域の社会人に学びの機会を提供するリカレント教育の拡充

### 2 研究

社会共創を支える多様で独創的な研究

- 世界トップレベルを目指す特色ある先端研究
- 社会課題解決を目指す応用研究
- 未来を拓く多様な基礎研究
- 分野を超えた横断的大学院

### 3 社会貢献

三重モデル地域創生

- 先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出
- 地域課題解決・地域文化発展
- 安心・安全・快適な社会の形成

### 4 医療

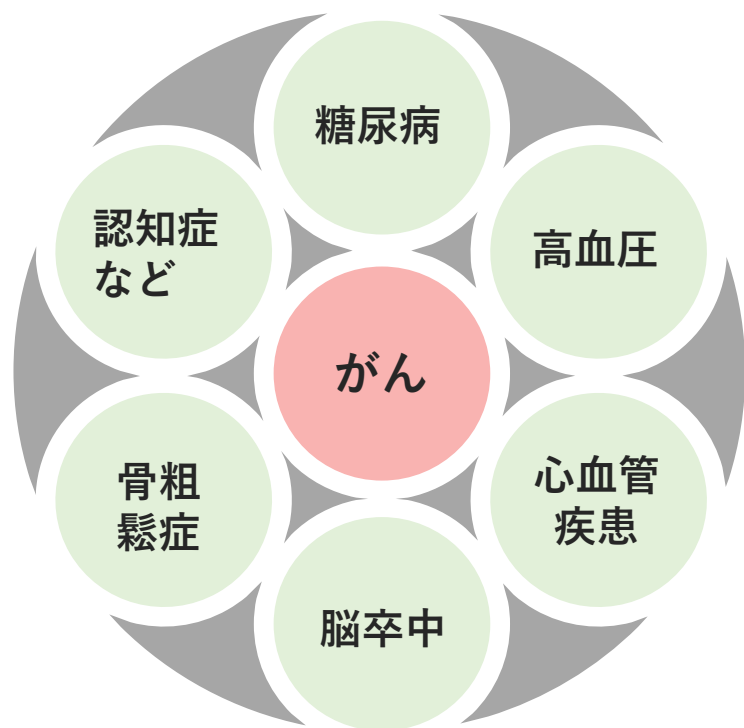
先端医療の実施と医療人育成による  
地域医療の発展

- すべての県民への質の高い医療の提供
- 医療人の育成
- 最先端医療の研究推進



# 総合がん治療センター（2022年11月設立）

## 1 複雑化するがん患者（併存疾患）への対応



がん治療により悪化する可能性

がん治療



併存疾患

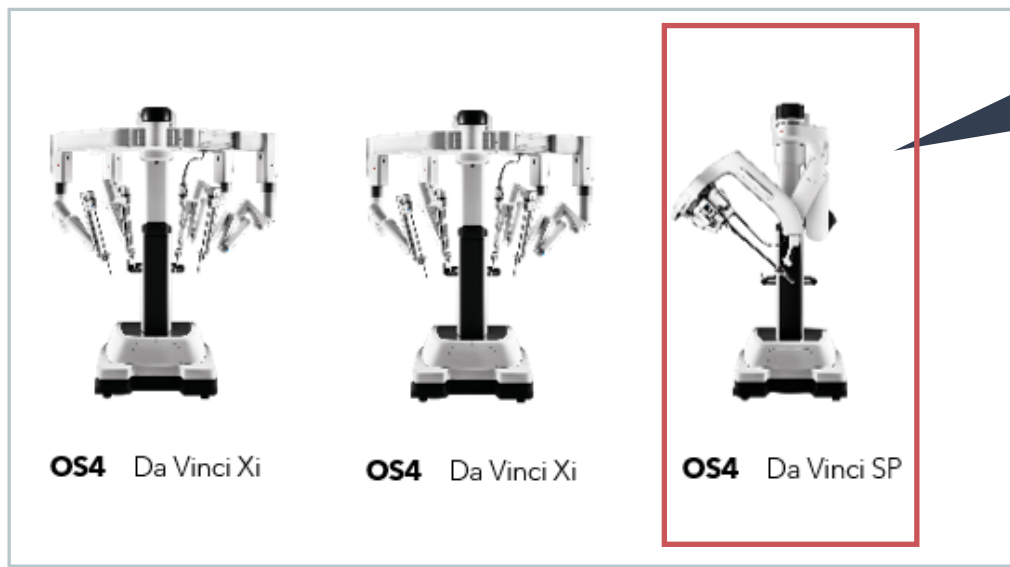
がん治療に支障が出る可能性

- がん治療による併存疾患への影響を最小限に
- 併存疾患によるがん治療への影響を最小限に

併存疾患もきちんと管理し、がん治療のさらなる質の向上へ

## 2 | ロボット支援下手術の充実

がんの種類に応じた最適のロボット支援手術を提供できるよう、「**ダヴィンチ**」を3台保有し、より多くの患者さんが低侵襲な手術を受けられる体制を整えています（2024年度実績：594件）



さらに

傷口が小さい

出血が少ない

術後の痛み軽減

回復が早い

最新支援ロボット（Da Vinci SP）シングルポートを導入している国立大学病院は当院のみ  
今後も多くの患者さんに滞りなく、安心・安全な手術の導入を支援していきます



### 3 | 高精度放射線治療の充実

放射線治療装置3台のうち2台を、**最先端のOXRAYとETHOS Therapy HyperSight**に更新。  
ピンポイントの治療によるがん細胞治療効果の向上と副作用の減少。  
体内の腫瘍や臓器の位置変化に応じて、AIで最適な治療を行う**即時適応放射線治療**が可能に



OXRAY



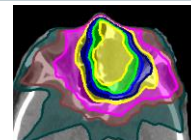
リング旋回

ガントリー回転とあわせて2軸方向の回転による照射が可能

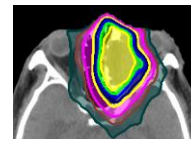
さらに

ピンポイントでの治療が可能

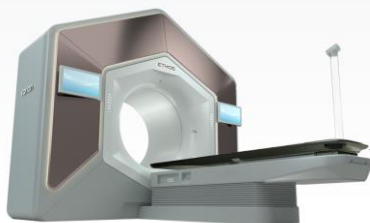
副作用が少ない



従来の治療



『OXRAY』の治療



ETHOS Therapy HyperSight

体内の臓器・腫瘍の位置は日々変化

さらに

日々の変化にあわせた最適な治療が可能

これまで照射が難しかった病変に対しても治療が可能

装置内蔵のCTで病変をとらえ、**人工知能 (AI)を用いてその時の最適な治療計画**を即時に作成  
(即時適応放射線治療)

IMRTの治療件数は**国立大学病院で1位\***。即時適応放射線治療が可能な施設は**東海地方で当院のみ**。個々の患者に対して最適で副作用の少ないがん治療を実施できる大学病院。



# 三重大学における医療DXの取組み ～ MUDXプロジェクト～

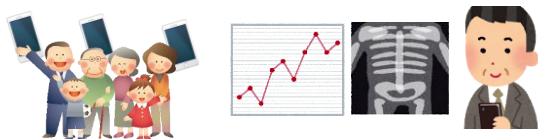
医療DXを推進して県民がPHRによる24時間健康把握 やAI受診推奨等を利用できる体制を整え、三重大学と県内の医療機関・薬局を結んでスマートホスピタル化し、県民の健康寿命延伸を図ります。

－ 三重大学ビジョン 2030より－

## 取組① PHRを地域全体で推進

【実績】大学と病院協会が連携して推進  
－稼働中施設が県内全体に拡大中

- ・電子カルテやマイナポータルと連携したPHRにより、医療情報を患者自身が一元的に把握し活用することが可能。
- ・家族や他の医療機関との医療情報共有



## 取組③ D to D 遠隔医療の推進

【実績】内視鏡検査の遠隔支援システム  
【取組】遠隔ERシステム開発



## 取組② 県域全体をスマートホスピタル化

【取組】地域医療介護総合確保基金「県内病院間のシームレスな医療情報連携に向けた医療DX基盤の整備」



- ・FAXをなくす
- ・CD-Rなどのメディアをなくす
- ・情報連携のスピードアップ
- ・迅速な情報登録と予約枠確保

### Point !

- ✓ 医療DX専任教員(教授,助教)を配置
- ✓ 医学系に加え、人文系や工学系などの多分野の教員が参画
- ✓ 大学院修士課程「デジタルヘルス専攻」設置を計画

医療DXプロジェクトの情報は、↓でもご覧いただけます。

<https://www.rcdc.mie-u.ac.jp/project-kuwana-dx/>



成果を三重県全体に還元

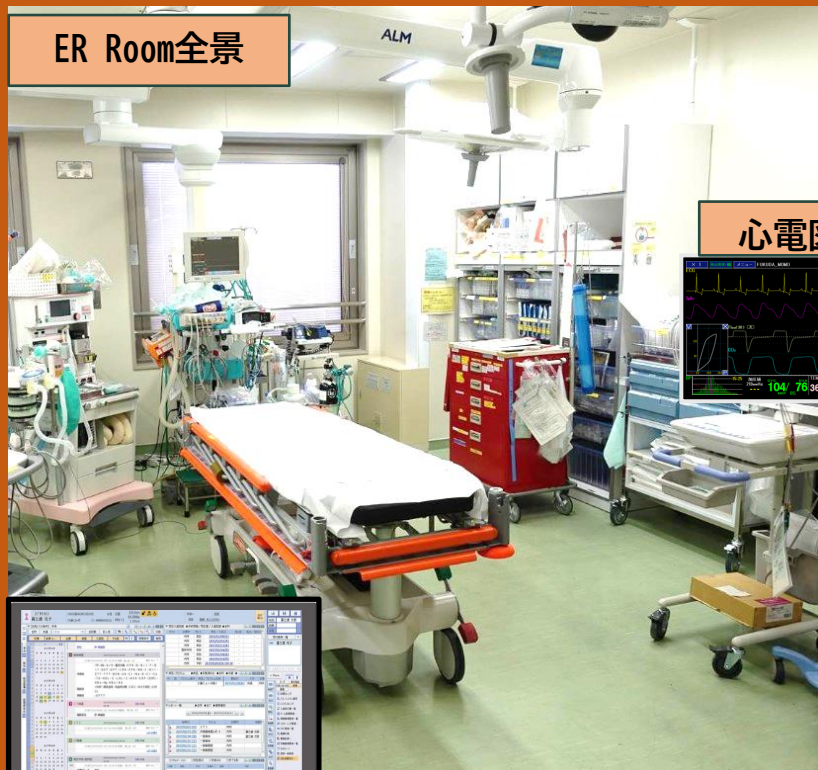


# 費用対効果の高い遠隔ERシステムの構築と実証検証

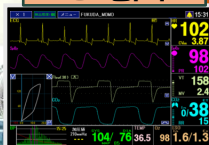
## ER Room

松阪中央病院・永井病院

ER Room全景



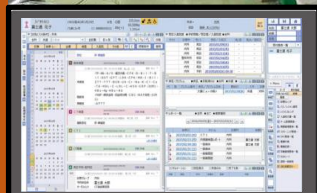
心電図



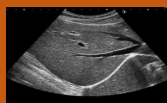
遠隔 ER  
(遠隔ICU)

専用回線

電子カルテ



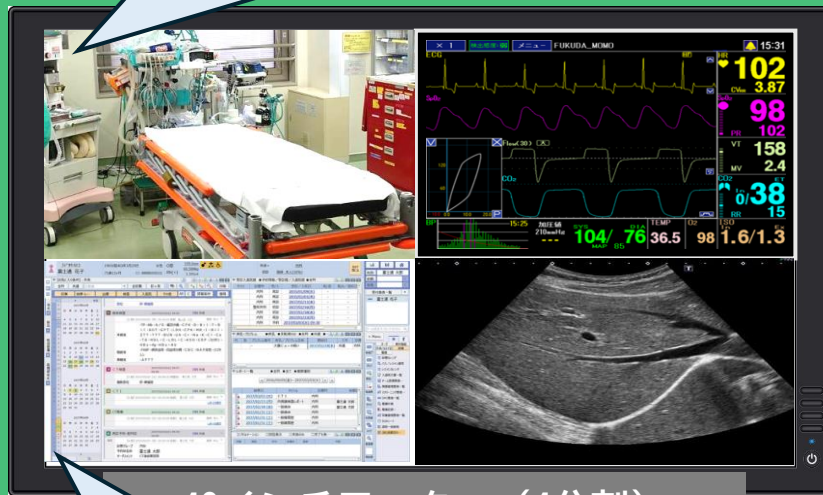
エコー  
麻酔器等画面



## 三重大学病院 ICU カンファレンス室

永井病院と松阪中央病院等を切り替え可能

カメラのズームや角度をリモートで操作可能



48インチモニター (4分割)

大学側画面をクリックすることにより  
相手方電子カルテ画面のリモート操作が可能

安価でセキュアな  
システム